

## 研究主題 「生徒に自らの成長を実感させる道德の指導の工夫

ー考えの変容を振り返る活動を通してー」

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

江戸川区立小岩第五中学校 教諭 寺田 篤史

### 第1 研究のねらい

平成25年の教育実行再生会議において、いじめの問題などへの対応における道德教育の重要性が議論となり、文部科学省「道德教育の充実に関する懇談会」の報告（平成25年12月）、中央教育審議会答申「道德に係る教育課程の改善等について」（平成26年10月）では、「道德の時間」を「特別の教科 道德」（仮称）として位置付けた上で、道德に係る教育課程を改善する必要性が示された。それを踏まえ、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度より「特別の教科 道德」が設置されることになった。このような状況から、学校における道德教育が果たす役割は今後、より一層大きくなると言える。

中央教育審議会答申「道德に係る教育課程の改善等について」は、「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道德教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」と示しており、「人としてどのように生きるかということについて、一人一人が主体的に考えを深めることが特に重要である」としている。そして、中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編（平成27年7月）は、「生徒が主体的に道德性を育むための指導」をするためには、生徒が「自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりできるようにすることが望まれる」と示しており、生徒が主体的に道德の学習に取り組めるようにするためには、生徒に成長を実感させることが重要であると考えた。

そこで本研究は、道德教育の要である道德の学習において、自らの考えの変容を振り返らせることで、生徒に成長を実感させる指導方法を開発し、その有効性を検証することをねらいとした。

### 第2 研究仮説

道德の学習において、学習前と学習後における考えがどのように変容したのかを振り返る活動を行うことによって、生徒は自らの成長を実感するであろう。
--

### 第3 研究の内容と方法

#### 1 基礎研究

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編や先行研究から、学習前と学習後において、ねらいとする道德的価値に関する同一の問いを生徒に提示し、その問いに対する考えがどのように変容したのかが分かるような活動を工夫することが、自らを振り返り、自らの成長を実感させる上で効果的であることが明らかになった。一方で、そのような活動を実践するための指導方法が具体化されていないことが分かった。

#### 2 調査研究

平成27年7月、都内公立中学校3校の第2学年生徒471人と学級担任40人を対象に、道德の学習における、生徒の成長の実感に関する意識調査を質問紙法により行った。

「学習前に比べて学習した後では、自分の中で成長を感じるか」という問いに、肯定的回答をした生徒の割合は44%であった。この結果から、半数以上の生徒は道德の学習を通じて、成

長を実感していないことが分かった。

また、「学習を通じて、生徒に成長を実感させることができているか」という問いに、肯定的回答をした学級担任の割合は36%であった。このことから、60%以上の学級担任は道徳の学習を通じて、生徒に成長を実感させることに困難さを感じていることが分かった。

以上のことから、道徳の学習において、生徒に考えの変容を振り返らせることで、自らの成長を実感させるための指導方法を開発することが必要であると考えた。

### 3 開発研究

#### (1) 学習前と学習後における考えを記録するためのシート

生徒が、学習前と学習後における考えを記録するためのシートとして「成長を実感“ハートフルフラワー”」（以下、「ハートフルフラワー」と表記）を開発した（図1）。その構成を以下に示す。

- ① 「ねらいとする道徳的価値に関する問い」を設定し、生徒に提示する欄
- ② 「ねらいとする道徳的価値に関する問い」に対する考えを、生徒に記入させる欄（ハートをモチーフにした花びらと葉を合計10枚配置した。）

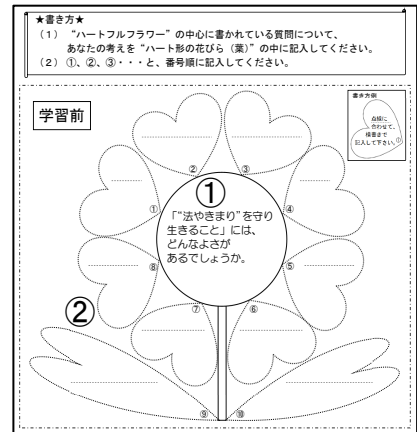


図1 成長を実感“ハートフルフラワー”

#### (2) 学習前と学習後における考えの変容を振り返るためのシート

生徒が、学習前と学習後における考えの変容を振り返るためのシートとして「ハートフル 振り返りシート」（以下、「振り返りシート」と表記）を開発した（図2）。その構成を以下に示す。

- ① 教材名、内容項目、教材のあらすじを示す欄
- ② 「ハートフルフラワー」を貼り付ける欄（学習前に記入したものを左側に、学習後に記入したものを右側に貼り付ける。）
- ③ 「2つのハートフルフラワーを見て感じたこと」や「今後の生活に生かしたいこと」を記入する欄
- ④ 成長の実感を5段階で自己評価する「成長実感バロメーター」を記入する欄（図3）（「かなり」「やや」といった程度量を表す副詞は「日本語の程度量表現用語に関する先行研究」を参考に定めた。）
- ⑤ 指導者がコメントを記入する欄

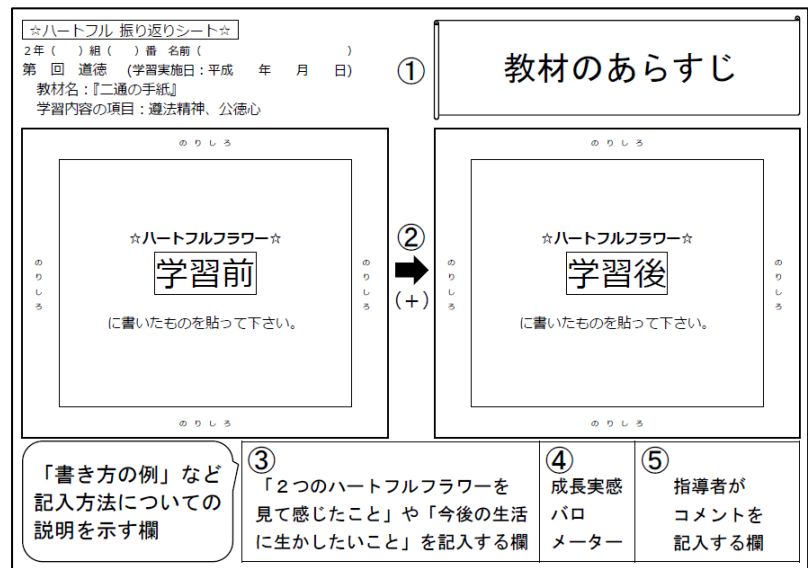


図2 ハートフル 振り返りシート

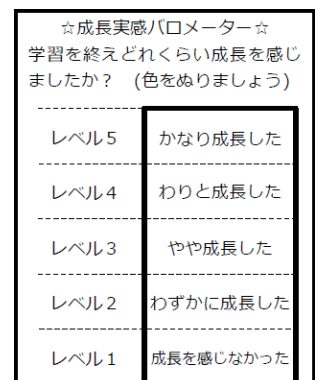


図3 成長実感バロメーター

#### 4 検証授業

##### (1) 対象と教材

平成 27 年 10～11 月、都内公立中学校の第 2 学年生徒（5 学級・165 人）を対象に検証授業を実施した。道徳教育推進教師と協議し、教材「二通の手紙」（出典『私たちの道徳』文部科学省）を用い、内容項目「遵法精神、公德心」で授業を行った（表 1）。

##### (2) 「ハートフルフラワー」を作成する活動

「ハートフルフラワー」で提示する「ねらいとする道徳的価値に関する問い」を「“法やきまり”を守り生きることには、どんなよさがあるのでしょうか」と設定し、学習前に 1 枚、学習後に 1 枚、合計 2 枚記入させ、回収した。

##### (3) 「振り返りシート」を作成する活動

- ・ 回収した 2 枚の「ハートフルフラワー」を返却し、「振り返りシート」に貼り付けさせた。あわせて、「ハートフルフラワー」の記述を踏まえて行った指導者のコメント（表 2）を記載した紙を個々の生徒に配り、「指導者がコメントを記入する欄」に貼り付けさせた。
- ・ 学習後の「ハートフルフラワー」の花びらと葉のうち、学習前の「ハートフルフラワー」にはない新しい記述がされているものを赤鉛筆で囲ませた。
- ・ 「2つのハートフルフラワーを見て感じたこと」や「今後の生活に生かしたいこと」を記入させた後、「成長実感バロメーター」を記入させた。

表 1 検証授業の流れ

時	検証授業の流れ
1	・ 学習前の「ハートフルフラワー」を作成する活動を実施 ねらいとする道徳的価値に関する問い 「“法やきまり”を守り生きることには、どんなよさがあるのでしょうか」
2	・ 教材「二通の手紙」を用いた授業を実施 ・ 学習後の「ハートフルフラワー」を作成する活動を実施
3	・ 「振り返りシート」を作成する活動を実施 ・ 活動後、質問紙法による意識調査を実施

表 2 「ハートフルフラワー」の記述とそれを踏まえて行った指導者のコメントの例

「ハートフルフラワー」の記述		指導者のコメント
学習前	学習後	
① みんなが安心して暮らせる。 ② 犯罪が減少する。 ③ 誰かに守られている安心感がある。	① 人と人とのつながりが分かる。 ② 人の大切さが分かる。 ③ 人を守れる。 ④ 幸せになれる。 ⑤ みんなが安心できる。	“法やきまり”は人を守り、その結果が「人のつながり」、「人の大切さ」の理解を生み、最終的に「幸せ」をつくり出すという考えの流れに感心しました。行動をしばり、あまり良いイメージをもたないような身の周りの様々な“きまり”もまた、人々の「幸せ」を願いつくられたものなのでしょうね。その学びをぜひ、今後の生活に生かして行ってください。 （下線部は生徒の記述に触れた部分）

##### (4) 「ハートフルフラワー」の記述の分析

記述のある花びらと葉の枚数が、学習前と比較して学習後に増加した生徒の割合は、全体の 46%、変わらなかった生徒は 27%、減少した生徒は 27%であった。一方、学習後の記述に、学習前にはない新しい記述（表 3）が確認できた生徒の割合は全体の 92%であり、90%以上の生徒の記述から学習を通じた考えの変容が確認できた。

表 3 「振り返りシート」の記述の例

「ハートフルフラワー」の記述		「2つのハートフルフラワーを見て感じたこと」や「今後の生活に生かしたいこと」の欄の記述
学習前	学習後	
① 日本がよくなる。 ② 日本がきれいになる。 ③ 事故が減る。	① <u>真面目な考えになれる。</u> ② <u>命を守れる。</u> ③ <u>法やきまりを破ると後悔する。</u> ④ <u>法やきまりを破ったときよりも、守ったときの方がよい気分になれる。</u> （下線部は学習前にはない新しい記述）	学習前の「ハートフルフラワー」を書いたとき、何を書こうか迷っていました。だから、何となく思いつきで書いていました。しかし、学習前に比べて学習後は、すらすらと自分の考えを書くことができました。法やきまりを守ると、命を守れるということが分かりました。今後は簡単なきまりでも守っていきたいと思いました。

(5) 「2つのハートフルフラワーを見て感じたこと」や「今後の生活に生かしたいこと」の欄の記述の分析

「学習前に比べて学習後はすらすらと自分の考えを書くことができた」、「学習前は“安心して暮らせる”というような考えだったが、学習後は“人を守れる”というような深い考えをもてるようになった」といったように、学習前と学習後における自己の考えを比較する記述（表3）が、全体の66%の生徒から確認できた。

(6) 成長の実感についての分析

「成長実感バロメーター」で生徒が選択したレベルごとの割合について、かなり成長した（レベル5）、わりと成長した（レベル4）、やや成長した（レベル3）を合計すると全体のおよそ90%であった（図4）。また、検証授業後の意識調査で「学習前に比べて学習した後では、自分の中で成長を感じるか」という問いを行った結果、肯定的回答をした生徒の割合は80%であった。これは、検証授業前の結果と比較し、倍増する結果であった（図5）。

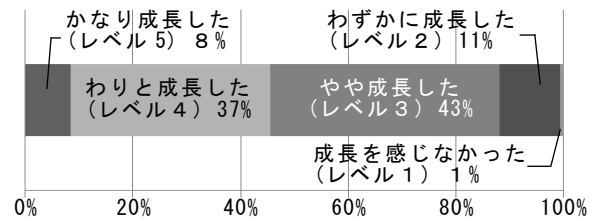
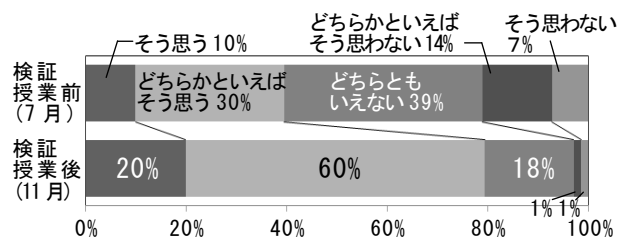


図4 「成長実感バロメーター」で生徒が選択したレベルの割合



※対象 検証授業実施校の第2学年生徒

図5 「学習前に比べて学習した後では、成長を感じるか」という問いに対する回答の割合

(7) 成長を実感させた要因の考察

「振り返りシート」を作成する活動で生徒に成長を実感させた要因を考察するため、「成長実感バロメーター」のレベルを決める際に何を参考にしたかを、7つの選択肢を提示し複数回答法で調査した。その結果（図6）から、「ハートフルフラワー」での記述のある花びらと葉の枚数が学習前と比較し、学習後に変化したことよりも、「新しい考えが記述できたこと」や「記述の内容が変化したこと」が成長を実感させた要因になったと考えられる。また、半数以上の生徒が「先生からのコメント」を選択していたことから、「ハートフルフラワー」の記述を踏まえて指導者が行う道德性の評価が、生徒に自らの成長を実感させることにつながった可能性が高いと考えられる。

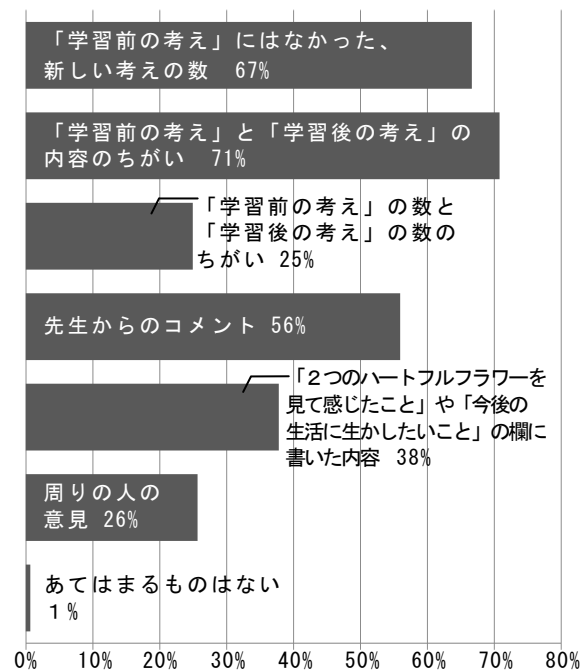


図6 「成長実感バロメーター」のレベルを決める際に何を参考にしたかを調査した結果

第4 研究の成果

道德の学習において、「ハートフルフラワー」や「振り返りシート」を作成する活動を行うことによって、生徒は学習を通して考えが変容したことや、新しい考え方をもてるようになったことを振り返ることができ、そのことが成長の実感につながる可能性が高いことが分かった。

第5 今後の課題

他の学年の授業や他の教材を使った授業においても実践を重ね、研究の妥当性を高める。